

健康だけじゃない。
その人らしさまでを支えられる
看護職者へ。

2022年4月1日、金城学院大学に「看護学部」が誕生。108名の新入生を迎えて看護学の教育・研究がスタートしました。看護学部が育てるのは「健康だけじゃない。その人らしさまでを支えられる看護職者」。最新の施設・設備と充実したカリキュラムで、これからの時代を担う看護職者を育成します。

総合大学の強みを生かし 社会の要請に応える看護職者を育てたい。

2022年春、金城学院大学6番目の学部となる看護学部が始動し、第1期生108名が新たな一歩を踏み出しました。メンバーと議論を重ねながら看護学部の設置構想の策定に携わって3年。真新しい校舎に学生たちが集い、生き生きと学ぶ姿を見たときは、無機質だった建物に生命の息吹が宿ったような気がしました。

少子高齢化の進行、慢性疾患を抱えながら地域社会で生活する人々の増加、老々介護の増加など、日本の保健・医療・福祉を取り巻く環境は多様化・複雑化し、看護職者の役割や活躍の場は大きく広がっています。社会のグローバル化に伴い、看護にもますますグローバルな視点での対応が求められています。こうした多様な看護ニーズに応えるため、本学部は充実したシミュレーション教育と手厚い教育サポートを通じて看護実践力を強化。確かな知識と技術、国際的視野を備えた看護職者の養成をめざします。

いうまでもなく、本学は福音主義キリスト教の精神

に基づいた教育と研究を行う総合大学です。本学での4年間の学びを通して、学生は看護職者にとって一番大切な「他者をいたわり思いやる優しさ」と「豊かな人間性」を自ずと育むことができます。また、他学部の学生や教員との交流を通して、看護に偏ることのない幅広い知識・教養を得ることができます。特に本学は英語教育に定評があり、グローバル社会に対応する英語力を身につけることができるのも大きな魅力です。他学部のスペシャリスト(薬剤師・管理栄養士・社会福祉士など)から多職種連携やチーム医療を実践的に学ぶことも、総合大学ならではの強みです。

まだスタートしたばかりの看護学部ですが、130余年におよぶ本学の歴史と伝統、恵まれた教育環境を存分に生かし、教職員が一体となって豊かな学びの場をつくり上げること。何より「金城学院大学で学び、看護職者をめざしたい」という学生たちの志に全力で応えたいと思っています。今後ともご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。



金城学院大学 看護学部
看護学部長

市川 誠一

ICHIKAWA Seiichi



本学看護学科のカリキュラムの大きな特長は、看護の実践能力を育てるための演習を重視し、入学したすぐの4月から実施していること。事前学習や講義で必要な知識を学んだ後、技術演習を行うことで、「看護の心」と「知識・技術」をしっかり身につけていきます。



この日は「入院中の患者さんをベッドから車いすに移乗し、外来フロアにある検査室まで移動する」という設定で演習を行いました。

「理論」と「実践」をくりかえし、豊かな人間性と看護実践力を養います。

基礎看護生活援助技術演習

ベッドメイキングやシーツ交換、車いすやストレッチャーを用いた移乗・移送、食事の援助技術など、生活援助に必要な援助技術の基礎を身につけます。



学生が患者役と看護師役、両方を体験することで、安全・安楽な移乗・移送技術を学ぶと同時に、援助の受け手の気持ちも理解することができます。



ストレッチャーへの移乗・移送では、「自力で動くことが困難な患者さんをベッドからストレッチャーに移し、検査室まで移動し、再びベッドへ戻す」という演習を行いました。



狭い通路やコーナーを回る時の扱いや、廊下で移送する時のスピードなど、先生から指示を受けながら移送を行います。

看護

コミュニケーション論

講義とロールプレイなどの実践形式を織り交ぜながら、看護におけるコミュニケーションの意義を理解し、コミュニケーションスキルを段階的に修得。学生同士で、時には模擬患者さんを相手に実践しながらのロールプレイ演習を行うことで、コミュニケーションスキルの向上を目指します。



この日は、8月に実施される病院実習に向けて、患者さんとのコミュニケーションスキルを養うという授業で、最初に看護面接の悪い例、良い例をビデオで視聴。その後グループに分かれてディスカッションを行い、それぞれの良い点、悪い点、改善点などを分析し、発表することで、理解を深めました。



「学生同士による看護面接演習」の風景。6名1グループでのロールプレイで、患者役1名、看護師役1名、進行係1名、観察者3名が交代して、全員がそれぞれの役割を体験します。

看護学部 3つの強み

1 看護の専門知識と実践力を育成

医療の進展・高度化、保健・医療・福祉現場の変化に対応できるよう、最新の設備と充実した教育プログラムを活用して看護実践能力を養います。

2 グローバルに対応できる視点と感性を養う

4年間にわたり「看護に生かす医療英語」を学ぶほか、グローバルな視野と感性を養い、看護職者の役割を学修。将来、開発途上国や医療先進国での保健・医療活動など、国際的に活躍するための基礎を身につけます。

3 ICTを活用した教育を実施

デジタル教科書やICT教育支援システムを導入し、学生と教員間の双方向型授業を行うことで、在学中からICTツールに精通し、医療のICT化に対応できる力を養います。



W5棟



看護学部の新たな学び舎「W5棟」 最新の施設・設備で看護実践力を育成。

看護学部の開設にあわせて新設した5階建ての校舎「W5棟」。コンセプトは～学びの森～。

講義、演習、実習、研究など、看護学を学ぶための最適な環境が整っています。

W1棟、W2棟の木調の質感を踏襲することで、キャンパス全体と医療系学部の調和を図っています。

W5

1F/2F



2F エントランスホール



1F 演習室



2F 中講義室

Students Voice

私たち、1期生です！

この春入学した看護学部の学生に
一言インタビュー。
講義や実習の感想や大学生活の様子、
将来の夢や目標などを
ざっくばらんに語ってもらいました。

看護師になる！と決めたのは、
中2の時に目の前で起こった交通
事故がきっかけ。救急車が来る前に
ドクターカーが通りかかり、医師と
看護師がテキパキと応急手当てをして
いる姿を見て、すごくなって。夢は、
大きな病院の救急救命で
看護師として働くこと。



永田 絢女
NAGATA Ayame

中西 晶子
NAKANISHI Akiko



「人のためになる仕事がしたい」
「人の幸せが自分の幸せ」と思って
いた私にとって、看護師という仕事は
やりがいもあり、資格も取れるので、
ベストな選択だったと思います。
コミュニケーションスキルを
磨いて、患者さんの心のケアが
できる看護師になりたいです。



3F 基礎看護学実習室 30のベッドと最新の視聴覚設備を備えた実習室。ここではヘルスアセスメント、日常生活援助など、基礎的な看護技術を学修します。



3F 成人看護学実習室 成人期にあたる患者さんのライフサイクルや健康状態レベルに合わせて必要な看護技術を学修します。



3F 小児・母性看護学実習室 妊娠中から出産、産後の女性や子どもの発達段階にあわせた看護技術を学修します。



3F 4床病室 実際に医療現場で使用されている機器を導入した4床病室。病院さながらの環境で実践的な学修ができます。



3F ICU (シミュレーションルーム) ICU用ベッド、人工呼吸器、モニターなど、実際に医療現場で使用されている機器を導入したICU(集中治療室)でクリティカルケアを学修します。



3F 精神・高齢者・在宅看護学実習室

和室やトイレ、浴室など、居宅を模した実習室。訪問看護の基本的な技術や在宅療養者、高齢者への日常生活援助など、地域で生活・療養する人々への看護技術について学修します。



4F 大講義室

看護師という職業に興味を持ったのは、看護師である母の影響が強いです。講義や課題、演習などで毎日大変ですが、どの授業も将来の仕事につながっていると思うと、ひとつとして手が抜けません。全力で取り組み、知識・技術を自分のものにしていきたいです。

中西 日向子
NAKANISHI Hinako

築山 梨乃
TSUKIYAMA Rino

金城は総合大学なので、他学部の学生と授業が受けられるし、語学を学ぶ環境も充実。先生方のサポートも手厚いので、学ぶ環境としては最高です。4年間の学びで看護力はもちろん、人間としても成長し、患者さんに安心感を与える看護師になりたいです。

小5から中3まで、父の仕事の関係でアメリカに住んでいました。風邪などで病院に行くと、看護師さんがいつも笑顔で優しく接してくれ、いつしか私も看護師を志していました。いずれは海外の看護師資格を取り、海外の医療機関で働きたいと思っています。

名和 優那
NAWA Yuna